

がんばるで〜 青年！

国労西日本本部青年部
機関誌 がんばるで〜青年！3号

発行責任者 強田 安昭
編集責任者 清水 良輔

第5回平和のつどい開催in岩国！！

8月5・6日、毎年開催している『平和のつどい』を、今年も開催しました。今年は例年の広島市内での行動だけではなく、岩国へも足を伸ばしました。

1日目 米軍岩国基地見学

平和ってなに？

平和委員会の吉岡光則事務局長の案内で、基地の周辺や少し離れた高台から見学しました。沖合いを埋め立て作られた新しい滑走路の延長線上で説明を聞いていたときに戦闘機が爆音を轟かせて着陸していきました。宮島周辺での低空飛行などで抗議活動が起こっていることや、基地の整備だけではなく様々な設備に日本の税金が投入される『思いやり予算』の話など、私たちの生活に全く関係の無いことに税金が莫大につき込まれた上に、岩国の人達への生活が直接危険に晒されている現状を目の当たりにしました。

また、米軍再編によって岩国基地の人員が増えるのに対応するために住宅を造成しようとしている愛宕山にも足を運びました。爆音解消の理由から滑走路を沖合いへ移設するために埋め立て用の土砂を、愛宕山の形が変わるまで削って運び出しました。最終的にはその場所に米軍住宅を計画し、裏で利権などが絡み合っているとしか思えない話でした。



2日目 国鉄原爆死没者慰霊式典参列～学習交流会

翌日は国鉄原爆死没者慰霊式典に参列し、慰霊碑の碑文の群読を行いました。鉄道の先輩方も多くの方が原爆の犠牲になっており、今年で合祀された方が300名になりました。再びこのような惨劇を起こさないために核兵器廃絶を訴える大切さと、今年は東日本大震災での原発事故もあり、人類と核の関係についても考えていかななくてはならないと感じさせられます。

午後からは国労西日本本部の重村副委員長を講師に『軍国主義と労働組合』をテーマに学習会を行いました。太平洋戦争前から戦中にかけて、日本は戦争に全ての力を注ぎこめるよう法律を作り、労働運動や反戦運動などは厳しく弾圧されていきました。現在、日本では憲法9条を変えて戦争ができる国にしようとしています。戦争になれば、私たち鉄道労働者は兵隊や武器・弾薬を運ぶことになり、戦争に加担させられることは当然ですが、戦時体制になれば労働運動はもとより、言論の自由なども奪われることになりかねません。こうなれば、私たち労働者は戦争のために奴隷的な労働を強いられ、人間らしい生活からかけ離れた生活になってしまいます。労働組合に結集する労働者として、自分たちの運動を守るためには、平和と民主主義を守ることがとても重要なことではないでしょうか？



私たち国労青年部も平和運動では弱い面がありますが、労働運動を行う上で平和と民主主義を守ることが重要であることと、無駄な兵器を作らなければ私たちの生活にもっと税金が回ることをもっと広く知らせていく必要があります。また、そのための学習をこれからも定期的に行っていきましょう。